

平成27年度 東三河自然再生推進業務 概要

(愛知県東三河総局委託事業)

1. 業務の目的

東三河地域は、豊川の流域圏として、原生林、湿地、干潟など全国的にも特色ある多様で豊かな自然環境を有し、貴重な動植物が生息し、環境学習のフィールドとしても高いポテンシャルを有している。その生物多様性の重要性や、東三河地域の豊かな自然についてよく理解し、保全活動の中心となって行動できる人材を育成することを目指した。

2. 事業の展開

人材の育成は「“ほの国自然ソムリエ”学校」の名称で講座を開設、豊橋、豊川、田原、新城、蒲郡など東三河を中心に県内などから43人が受講した。

3. 講座の実施

人材養成講座は、セミナーとして「指導者養成講座」と「成果・提案発表会」の2つの事業を実施した。また、途中、「東三河自然再生推進エコツアー」を同一内容で2回実施し、一般参加者も奥三河を中心に豊かな生態系を見て回り、理解を深めた。

成果・提案発表会は、愛知大学で一連の事業の最後に実施した。



開校式で挨拶する愛知県副知事の中西肇学校長



陣内さゆり氏(愛知県環境部)が「あいち生物多様性戦略2020」を解説した



豊橋市岩崎広場で岩崎里山の会と協働して実施した第1回セミナー

4. 多様な主体との連携・協働

東三河地域の大学及び自然環境保全・保護活動団体等と連携・協働して事業展開を図った。事業実施計画作成及び事業実施体制づくりに当たっては、東三河生態系ネットワーク協議会、新城設楽生態系ネットワーク協議会及び渥美半島生態系ネットワーク協議会の3団体との連携・協働を図った。

愛知大学、豊橋技術科学大学には、専門的なアドバイスをいただいたほか、愛知大学には開校式と最後の成果・提案発表会会場を提供してもらった。

講座実施では、東三河で活動する岩崎里山の会、とよかわ里山の会、自然に親しむ会・作手、鞍掛山麓四谷千枚田保存会などと協働した。

受講生募集等では、豊橋、豊川、蒲郡、新城の4市などの広報誌でPRしていただいた。地元新聞社やインターネット上でのPRの協力も頂いた。

5. 受講生募集の結果

ア. 応募状況: 全部で43名を数えた。

イ. 応募者の概要: 男17名、女26名の計43名。年齢層は、20代9名、30代1名、40代9名、50代6名、60代11名、70代以上7名だった。居住地別では、豊橋、豊川、田原、蒲郡、新城以北、西三河、尾張のほか浜松と砺波市だった。



豊川浄化センターで愛知県東三河建設事務所の協力で第2回セミナー開催



鞍掛山麓四谷千枚田保存会、地元と協働して第3回セミナーを実施、新城市四谷の千枚田を訪問した



穂の国森づくりの会、ガステックサービスと協働して第3回セミナーで設楽町にある「サーラの森」を訪問

東三河ふるさと公園で第4回セミナーをとよかわ里山の会と協働して開催



6. 受講生成果・提案フォーラム

愛知大学を会場に平成28年2月20日に開催した。平石明氏(豊橋技術科学大学教授、東三河生態系ネットワーク協議会副会長)が基調講演し、受講生35人が提出した報告書をもとに4組15人が成果・提案発表した。



エコツアーでは、自然に親しむ会・作手と協働して作手にある長ノ山湿原を視察した



基調講演で土壌と微生物について話す平石氏



エコツアーでは、穂の国森づくりの会、ガステックサービスと協働してサーラの森を観察した



愛知大学で開催した成果・提案発表会で発表する受講生のグループ